

第 37 回岡山県消費者大会

「どうする？日本の、私たちの、『食』と『農』」をテーマに開催！



講師 鈴木さん

記念講演：食べることは農業の一環 ～「食べる人」「作る人」の垣根を低く～

10月22日（火）、第37回岡山県消費者大会がオルガホール（岡山市北区）、会員団体サテライト会場、Zoom 配信で開催され、17 団体、計 110 人余りが参加しました。

岡山県消団連 近藤幸夫代表幹事の開会挨拶後、新日本婦人の会岡山県本部の豊田依子さんが司会進行しました。



記念講演では、日本農業新聞論説委員長の鈴木祐子さんから、温暖化や自然災害、担い手不足や輸入偏重などの農業生産者をめぐる危機、それらを変えるべく今年改正された、農業の憲法ともいわれる「食料・農業・農村基本法」の重点施策とその課題について説明がありました。

一方で、子どもたちは身近に農業を見る機会が減り、高校生にニワトリの絵を描かせると2割は足が3本以上あるなど、「食」と「農」の距離が離れる危機感を訴えました。

そうした課題への処方箋としては、生産者と消費者が「対等互恵」の関係づくりをしていくこと、作る側の事情を理解し、食べる側は国産品を食べることで農家を支えるという関係を追求していくことが大切と語り、生協の役割にも期待が述べられました。

参加者アンケートでは、この「対等互恵」への共感が多く寄せられました。

団体活動報告：3つの構成団体から活動報告がされました。



住寄さん



長谷井さん



福島さん

倉敷医療生協中島支部 住寄 善志さんから、「『居場所』を開設し、地域のつながりを広げた支部の取り組み」として支部での幅広い活動を紹介、三井造船生協 長谷井 泰久さんからは、「地場野菜拡販の取り組み」としてコロナ後の地元農家とのつながり復活からの動き、岡山県労働者福祉協議会 福島 直行さんからは、「労福協

の活動について」として、労福協の歴史、県内独自の取り組みなど報告がありました。

★YouTube で見逃し配信を見ることができます（2024 年 12 月末まで）

下記 URL または右の二次元バーコードからどうぞ。

<https://youtu.be/1SJ8aE4u-FA>

